

令和 8 年度
竹原市景観審議会議事録
(概要版)

日時：令和 8 年 7 月 1 5 日（水）

1 5 : 0 0 ~ 1 6 : 2 0

場所：竹原市役所 3 階 大会議室

竹原市建設部都市整備課

○ 次 第

1 開 会

2 議 題

町並み保存地区周辺地区景観舗装整備方針について

3 閉 会

○ 出席者（8名）

今川 朱美 委員

梅谷 承孝 委員

増谷 昌則 委員

今本 新 委員

檜谷本 浩二 委員

山村 道雄 委員

荒川 幸子 委員

宮崎 信之 委員

○ 事務局

岡崎 建設部長

広近 都市整備課長

岡元 教育次長

新潟 文化生涯学習課長

《事務局庶務 都市整備課都市計画係》

北原 係長

小林 主任

1 開会

○開会挨拶（事務局）

- ・定刻になりましたので、ただいまから令和8年度景観審議会を開催いたします。本日は、ご多忙の中、本審議会に出席をいただき誠にありがとうございます。

○挨拶（事務局）

- ・本日の議題は、前回に引き続き、町並み保存地区周辺地区景観舗装整備方針についてでございます。

本日は、前回の審議会において委員の皆様からいただいたご意見を踏まえ、見直した整備方針案についてご説明いたします。

あわせて、竹原市伝統的建造物群保存地区保存審議会及び住民説明会におけるご意見や、その結果についてもお報告させていただきます。

本整備方針をより良いものとするため、委員の皆様には、それぞれの専門的な見地から、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

○配布資料確認、委員紹介（事務局）

2 議題

○会長

- ・町並み保存地区周辺地区景観舗装整備方針について事務局より説明をお願いします。

○事務局

- ・町並み保存地区周辺地区景観舗装整備方針について、資料1で説明いたします。

【資料1 事務局説明】

○委員

- ・前回の審議会からの変更点や委員から出た意見と対応について伺いたい。特に大きく変更した点で、地元のレンガを活用すべきという意見にどのような対応したのか。

○事務局

- ・前回の案では、黒レンガ風インターロッキングブロックを使用する予定であったが、地元のレンガを活用すべきという意見をいただき、改めて検討した結果、黒レンガ舗装を採用している。舗装用レンガの規格があり、試験成績表で品質や強度についても問題ないことを確認している。

○委員

- ・イメージ図のように、黒レンガの色は多少ばらつきがあるのか、それとも同じ色なのか。多少、色のばらつきが出るなら、デザインの的に上手い具合に配置してほしい。

○事務局

- ・多少のばらつきはあるが、イメージ図はあまりにも色が変わりすぎている。見本レンガのように基本は同じ色調である。

○委員

- ・レンガ舗装は目地で固めてしまうのか。改修工事等、給水や排水の更新が生じるため、現在のように固めてしまうと、非常に工事がやり難い。インターロッキングブロック舗装の施工方法をレンガに置き換えることができれば、簡単に補修ができると考えている。

○事務局

- ・我々も同じ考えがあつて地元企業に確認したが、レンガは目地で固めないと、角々が当たって欠けができてしまうため、施工には目地を入れて固定する必要があると説明された。補修に関しては、目地切りして部分的に取り外し可能と考えている。特に、車道対応が懸念点であり、目地がないとレンガが動いて路面に凹凸ができてしまうため、目地で固定する施工方法になる。

○委員

- ・レンガの下のコンクリート路盤の水セメント比や砂セメント比は交通量で詳細の比率が違うが、検討しているのか。

○事務局

- ・今回は整備方針であり、これから詳細設計に入る予定。車両の大きさや交通量についても検討していく。

○委員

- ・住民に不便のないことが一番大切である。

○事務局

- ・その辺りについても考慮して検討していく。

○委員

- ・レンガ舗装用の施工方法は、日本景観レンガ協会も出しており、車両通行の場合は重量がかかるため、レンガ自体が動かないように目地を固定することと記載されてる。長期的に持たせるのであれば、目地を均一に詰めて固定することが大事だとは思う。交通量によっても地盤の砂の厚さも異なるので、このエリアを同じ施工方法ではなく、交通量に合わせた施工方法の仕様を決めた方が良いのは。

○事務局

- ・その辺りの意見を踏まえて、今後、詳細設計を検討していく。

○委員

- ・住民説明会でもお願いしたが、側溝の取り外しが改善されても、空き家が3割程度あることや、住民が高齢になっており、年に1回の掃除の難しさはあまり変わらない。市も対応が難しいと思うが、できれば市の関係部署が自治会に呼びかけて相談して、業者に依頼して清掃した方が良いのでは。

○事務局

- ・地域の溝掃除に限らず、高齢化や人口減少により、地域だけで実施することが難しい状態は認識している。そういった意見が出ているということを他部署とも連携して、改善できるものがあれば考慮していく。

○委員

- ・側溝について根本的に改善するのであれば、側溝自体を真っ直ぐ整備した方が良くと考えられるが、今回の舗装整備方針で側溝はどこまで整備するのか。

○事務局

- ・今回の舗装整備では側溝自体は改修する予定はなく、舗装に接している側溝の縁石が外れたりしている箇所は、アンカーボルトで固定する施工工法で考えている。

○委員

- ・今回の整備で仲ノ小路上市線が大きく変わり、観光客が通りやすくなる。町並み保存地区内ではあるが、住民が生活しており、丁寧な説明が必要。

○事務局

- ・住民への丁寧な説明を実施して、整備を進めていきたい。

○委員

- ・住民がどう感じているのか考えながら、進めていきたい。地元の方から、反対意見はないのか。

○事務局

- ・住民説明会では反対意見はなかった。

○会長

- ・イメージ図を見る限り、竹原が今まで作ってきた景観の脈わりを守り、継承するような形で更新していくので、効果が期待できるのではないかと。また、SNS で観光客がどこに注目しているのか、どこの視点から見えたところを良くしたらいいのかということも的確に研究しており、その場から見える風景・景観を良くすることを考えて検討している。この整備方針で進めても良いのではないかと。

3 閉会

○事務局

- ・町並み保存地区周辺地区景観舗装整備方針につきましては、2 回にわたって審議をいただきました。今後は、生活や行事に支障のきたすことがないように、注意しながら方針に従った工事を進めたいと考えております。

以上をもちまして、令和 8 年度竹原市景観審議会を閉会いたします。